



年 頭 所 感

技術の素晴らしさを 如何に伝えるか

理事長 堀 功

みなさま明けましておめでとうございます。ご家族共々すばらしい2015年の新年を迎えられたことと思います。

昨年も広島土石流、御嶽山の噴火、また直近では長野北部の地震など自然災害の多い年でしたが、幸いにも会員各位の被害もなく正常な生産活動が行われたものと思います。

2013年に理事長に就任した際に、工業会の出荷高という数値にこだわりたい旨を申し上げました。2014年度の見通しは上期実績540億円、下期も546億円を見通し、2014年通期では1,087億円と前期比7.5%の増額となる予定です。4月の消費税増税による反動減による機械工具の出荷の落ち込みを非常に心配しましたが、好調な工作機械出荷や、航空機産業の活況にも支えられ、1,000億円の規模の維持ができることは、会員各位の努力の結果だと思えます。

さて昨年開催のJIMTOF2014では、16万人を超える入場者があり、小間数の割り当てには制限はあったものの、日本の最先端の工具の開発技術を世界に発信することができたと思えます。2年に一度のJIMTOFに向けて各社切磋琢磨の上に開発新商品を展示されており、日本の産業の底力を海外からの来訪者にも感じてもらったことと思えます。

工作機械も5軸加工機や複合加工機が当たり前になり、また、3D積層造型機と切削を組み合わせたハイブリッドな機械も多く展示されておりました。まさに、世界の機械加工の進むべき道筋がJIMTOFで示されたと言っても過言では無いでしょう。

最近日本の将来を考える機会がよくあります。私事ですが、産学連携機関が主催する社会人大学院の授業

を受け持ち、過去35年間の工具屋人生のことを話しています。社会人といっても30歳前の若い方々が多いのですが、授業を通じて彼らは「自分のものにしてやろう、吸収してやろう」という気持ちや高い志がひしひしと伝わってきます。巷では、大学生の学力低下や機械技術者の不人気が言われて久しいですが、決してそうではない。教える方に情熱があれば、自分がやってきたことに自信を持って伝えることができれば、皆目の色が変わるのです。技術の素晴らしさを如何に伝えるかが非常に重要であると感じる今日この頃です。将来を左右するのは、今を生きている我々が鍵を握っていると強く思います。

自分たちの開発プロセスで苦労したこと、ブレークスルーはどうやってできたかを語ることで、技術開発に興味を湧き、何かを生み出そうという気持ちになると私は思います。

最後になりますが、今年は長年の懸案だった超硬工具協会との統合を計画しています。現在工具工業会の超硬製工具の出荷高は全体の25%を超え、材料の違いによる垣根はなくなっています。また、仮に統合すれば4,000億円を超える大きな工業会が誕生します。今まで以上に、日本が世界の工具技術のリード役になり、魅力を高めることに繋がると考えています。それにより機械工具産業に携わる技術者の魅力が上がり、若い技術者に与える影響も大きくなると信じています。

未年の「未」は、成長途上の未熟の意味でもあります。本年の統合を機に、世界一の切削・耐磨工具の工業会に成長することを祈念して、新年の挨拶にいたします。

(株)不二越 常務取締役工具事業部長



年頭所感

経済産業省製造産業局 産業機械課長 佐脇 紀代志

平成27年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

安倍政権が発足してから2年が経過し、アベノミクスの「三本の矢」により経済の好循環が生まれ始めております。こうした動きを一過性のものに終わらせず、持続的な成長軌道につなげていくために、引き続き、成長戦略を推し進め、製造業から日本経済の再生を成し遂げていきたいと思っております。

我が国は世界に先駆けて少子高齢化が進展し生産年齢人口が減少するなど、まさに課題先進国であり、世界中の国々から日本が如何に対処するのか注目を集めています。実際に、ものづくり現場においても人手不足の顕在化や生産現場の作業負荷などの課題に対して有効な手段を講じていくことが急務となっております。こうした課題解決の切り札として、ロボットが注目されています。人手不足やサービス部門の生産性向上を図るためにロボットを活用するとともに、これを梃子に裾野の広い機械産業の更なる成長へとつなげていきたいと考えています。現在、安倍総理の下に、有識者からなる「ロボット革命実現会議」を設置し、日本をロボットが牽引するイノベーションの拠点とするための戦略づくりを進めています。ロボット未活用分野への導入支援、現場ニーズに即応した市場化技術開発、次世代のロボット技術開発を進めながら、並行して規制緩和、必要な安全規制の構築、標準化の推進など必要な環境整備を実施してまいります。

また、中長期的に国内市場の縮小が見込まれる中、我が国経済の牽引役となり、グローバルに活躍できる多様な企業群を継続的に生み出していくことが重要です。経済産業省としても引き続き、地域経済を支えながら、国際的にも高いシェアを保持するグローバルニッチトップ(GNT)企業を支援していきます。

併せて、我が国企業の海外展開を支援し、最先端のインフラシステム輸出を後押しし成長著しい新興国市場の獲得に向け、日本の優れた技術を世界に提供してまいります。産業機械課としても、世界最高水準の発電効率を誇る日本製石炭火力発電の輸出を推進してまいります。

さらに、法人税を成長志向型の構造に変革していく必要があります。実質的な法人税負担でみると日本企業の税負担は約30%と諸外国の企業より10%以上高い税負担となっています。数年で法人税を20%台まで下げるなど、高付加価値拠点・競争力確保に取り組んでまいります。

産業機械課は、これからも皆さんの生の声を聞き、それを産業政策に反映させていきたいと思っておりますので、良いアイデアやお困り事があったら、気軽にお声を掛けてください。

最後になりましたが本年が皆様方にとって更なる飛躍の年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶と代えさせていただきます。

平成26年度技術委員会・環境委員会合同総会開催



合同総会の様子

昨年11月20日(木)、平成26年度技術委員会・環境委員会合同総会が、兵庫県姫路市「夢乃井」において開催された。

総会は小出技術副委員長(オーエスジー)司会のもと、河野技術委員長(三菱マテリアル)の開会挨拶でスタート。同氏の技術委員会報告に続いて、丸山ドリル専門委員長代理(理研製鋼)、鳥居フライス専門委員長(オーエスジー)、西川歯切工具専門委員長(三菱マテリアル)、三井ねじ切り工具専門委員長(彌満和製作所)、清水環境副委員長(オーエスジー)より、各委員会報告が行われた。

毎年恒例となっているメンバー講演では、田中フライス専門委員(三菱マテリアル)より「ラスベガス旅行記」と題し、同氏がこれまで幾度となく訪れたラスベガスの魅力を紹介。カジノやギャンブルなど、華やかな人工都市といったイメージの一方で、周辺には広大な自然が広がるというギャップの素晴らしさに触れ、時には非日常の世界を体感し、心身共にリフレッシュしようと参加者に投げかけた。

今総会では、青木大阪支部長(三菱マテリアル)にお越しいただき、特別講話をいただいた。超硬工具協会の技術委員長を務められたご経験から、当工業会技術委員会との活動内容の違いや、独自の催し等について、紹介や説明、経験談をお話しいただいた。

今後統合を見据えた両団体の委員会が、それぞれの良い部分を活かしつつ調和して行けたらとのお話に、この日参加した委員の多くが同感したことと思う。

前年に続き宿泊での開催となった今総会は、軸受鋼、機械構造用鋼、ステンレス鋼、耐熱鋼、工具鋼などの各種特殊鋼製品の製造・販売を手掛ける山陽特殊製鋼株式会社様のご厚意により、同社本社工場の大規模な設備を見学させていただく機会にも恵まれ、非常に充実したものとなった。

翌21日(金)は雲ひとつない秋晴れの中、大河ドラマ「軍師官兵衛」のロケ地として賑わう姫路市内の名所旧跡などを巡ったのち、散会となった。



青木大阪支部長の特別講話



技術委員会報告
(河野技術委員長)



環境委員会報告
(清水環境副委員長)



工場見学時の集合撮影

平成26年度 秋季合同部会・第8回環境賞表彰式

平成26年11月28日(月)高輪和彊館3F会議室にて平成26年度臨時総会、秋季合同部会を開催した。堀理事長は挨拶の後、定款の規定に基づき議長に就任し、議事録署名人として大和精密工具(株)社長高橋勉氏と(株)イシハシ精工社長石橋秀男氏を指名し、臨時総会を開催。

来年2月超硬工具協会と共同で新事務所GYB秋葉原に移転することから、定款第2条「本会は、主たる事務所(本部)を東京都港区に置き～」の港区を削除し、東京都のみとする定款変更は、満場一致の拍手にて承認された。

追加事項として、堀理事長より新工業会の理事長に関して超硬工具協会より当工業会の不二越に御願いたいという打診があり、名誉あることで就任をお受けする予定であるが、合併により4,000億円という規模の工業会になること

から、当社の内規による機関決定で、代表取締役がこれにあたることですすめている旨、報告があった。

引き続き秋季合同部会を開催。日下部専務理事より「平成26年度の上期生産実績と下期見通し」報告があった。上期実績は540億4,700万円而对前年比109.3%となった。下期の修正見通しは各部会で再検討の結果、546億5,500万円、対前年比105.9%と当初見通しより若干上方修正され、通期では1,087億200万円(対前年比107.5%)と伸びが期待されている。

引き続きドリル、フライス、歯切工具、ねじ切り工具、バイトの各部会報告、総務企画委員会、技術員会および環境委員会報告、堀理事長総括が行われた。

休憩を挟み、松岡環境委員長(不二越)から第8回環境賞の受賞会社の発表の後、環境表彰式が行われ、環境大賞1社、環境栄誉賞1社、環境特別賞(地球温暖化防止1社、廃棄物対策1社)環境貢献賞(エコプロダクト部門3社、エコファクトリー部門1社)と合計8社を表彰。代表して3社より事例発表が行なわれ、石川副理事長(オーエスジー)の総括にて表彰式を終了した。

懇親会は、来賓の経済産業省製造産業局産業機械課課長佐脇紀代志様の挨拶、鶴巻理事(三菱マテリアル)の乾杯で開宴し、渡邊副理事長(彌満和製作所)の中締めで散会した。



秋季合同部会の様子

〈部会報告〉



関口ドリル
部会長

今泉フライス
部会長

東野歯切工具
部会長

古澤ねじ切り
工具部会長

植山バイト
部会長

◆堀理事長挨拶



堀理事長挨拶

今年は、まだ1ヶ月ありますが、振り返ると広島のと土石流、御嶽山の噴火、直近では長野北部地震など天災が多くありました。しかしながら会員の皆様の生産活動への影響は少なかったのではないかと思います。今年4月に消費税増税があり、国内の消費が落ち込んで、GDPもマイナスと国内経済状況はあまり良くないというのが皆さんの実感かと思えます。われわれに関係する自動車などの生産に関してはそれほど落ち込むこともなく、昨年を上回った生産となっています。関連の日工会の統計も今年は1兆6,000億円を超える出荷ということで過去最高を更新するのではないのでしょうか。航空機業界は、いまだ活況と呈しています。

今年は超硬工具協会と統合に向けて、統合推進委員会にて議論をしておりますが、まだ、ひとやまふたやまあります。今後も皆様方のご協力を御願います。

◆堀理事長総括

各部会からの報告があったように就任したときに数字にこだわりたいと申し上げ、平成26年度の生産も1,000億円を超える見通しとなりました。われわれには技術委員会とその専門委員会があり、その良さを超硬工具協会と合併しても踏襲していきたい。また超硬は、ISOなど国際規格に積極的に取組んでおり、両会の良いところを活かしていきたいと思えます。

懇親会

◆経済産業省佐脇課長挨拶

工業会として環境賞への取り組みを8年続けられることは大変なことと思います。廃棄物の検証、再利用率、さらにCO₂の削減、効率化など自主行動計画を掲げられていて、本日受賞された各社は、工場において継続的に環境に取り組まれています。また、製品に関しても長寿命や加工効率などで、お客様の省エネを追求しています。私共も環境問題に正しく対応し、協力させていただきます。

日本工具工業会は超硬工具協会との統合が予定され、来年は賀詞交歓会から合同開催ということで頼もしく思い、より一層のサポートをさせていただきます。今回、受賞された会社および工具工業会の会員の皆様のますますの発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。

◆乾杯の音頭 鶴巻理事（三菱マテリアル）

昨年からの堀理事長がこだわられていた1,000億円の見通しが立って、嬉しく思い、会員のひとりとしてほっとしています。といっても、厳しい環境にあり、気を緩めることなく、引き締めて取り組むことで、より一層、見通しを上げることができればと思います。来年は、超硬工具協会との合併も含めて新たなことが起こってきます。よき伝統、歴史は守りつつも新しいことに会員の皆様が一丸となって挑戦していくことを祈念します。



経済産業省
佐脇産業機械課長挨拶



鶴巻理事の
乾杯挨拶



懇親会の様子



第8回 環境賞表彰式



環境大賞、環境荣誉賞、環境特別賞、環境貢献賞が堀理事長より各受賞会社に授与された。受賞会社については、平成26年度環境調査報告(P6,7に掲載)を参照願います。受賞会社のプレゼンテーションは下記の3社が行ないました。内容に関しては、後日ホームページ掲載します。

◆石川副理事長

本日は環境大賞を受賞された三菱マテリアル(株)明石製作所と環境特別賞を受賞されたレッキス工業(株)トットリ工場には共通点があります。環境という単独な活動にとどまらず、5S、ISO、TPMなどの総合的な活動で取組まれ工夫されていることに大変感銘しました。彌満和精機工業(株)の活動は電力削減にありました。日本の製造業は高い電気料金が課題となっていて、それをインバーターに投資することで削減をはかれ、従業員、経営者の皆さんにも大変わかりやすい素晴らしい成果を上げられました。環境活動は、各社のノウハウを共有して切磋琢磨できる数少ない活動です。今後、新工業会となった後も、環境活動が継続的な活動となることを祈念します。



環境賞総括
(石川副理事長)



堀理事長より環境大賞を受ける
三菱マテリアル(株)青木明石製作所長

受賞会社プレゼンテーション

- 環境大賞
三菱マテリアル(株) 青木 太一
- 環境特別賞
レッキス工業(株) 林原 浩
- 環境貢献賞
彌満和精機工業(株) 猪飼 利春



受賞会社全員による記念撮影

平成26年度 環境調査報告

環境委員会 委員長 松岡 信一

1. はじめに

政府のエネルギー政策は東日本大震災以降の環境変化に対応して第4次の基本計画が示されました。

徹底した省エネルギー、再生可能エネルギーの導入加速、火力発電効率向上などエネルギー安定確保とともに地球温暖化の問題解決の重要性もあらためて言及されています。

日本工具工業会においても『環境改善の活動』を着実に進めて行く必要があります。

第8回目を迎えました環境賞表彰では提出頂きました環境調査票を厳正に評価し、各社の模範となるような環境活動に対して環境大賞／栄誉賞／特別賞を、そして応募の中から環境配慮技術について環境貢献賞を選出しました。

環境調査によるデータを日本工具工業会の環境指標としてまとめましたので以下に報告させていただきます。

2. 報告

(1) 環境調査結果

① 環境調査票回答状況

■ 集計期間：2013年4月1日～

2014年3月31日

■ 有効回答：19 / 34 社 (56%)

② 調査内容

環境マネジメント（環境教育・社会貢献活動含む）、温暖化対策、廃棄物対策（化学物質管理含む）に関する調査結果。

■ 環境マネジメントに関する調査結果

各マネジメント項目の取組み状況を表1に示します。

環境方針、環境推進組織では検討中の会社が昨年より4社増えました。

また環境報告書や事例発表履歴の項目も増加しており、会員各社の環境改善の取組強化が進んでいます。

■ CO₂排出量と生産高原単位の推移

排出量推移を図1に示します。

2013年度のCO₂排出量は前年比5000トン(5%)の減少で、各社の環境改善の成果が現れています。

一方で生産高原単位は前年より上昇し後戻りする結果となりました。

会員各社のより一層のエネルギー効率改善をお願い致します。

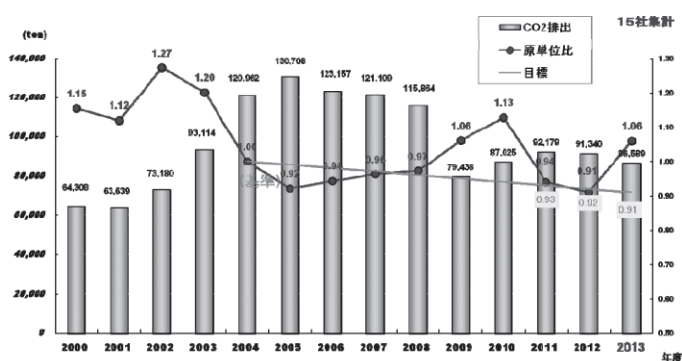
表1

■ 環境マネジメント

有効回答19社

調査項目	あり	検討	両方	片方	実施	公開	取得	発行	準備	なし
環境方針	11	6								2
環境推進組織	12	3								4
ISO14001の認証取得 ECO21準拠活動実施					6		11			2
環境(エネルギー・廃棄物)実績			10	1						8
グリーン購入・調達 の仕組	7	4								8
社員への環境教育		8			11					0
主要下請け会社 環境教育					9				10	0
環境事故への対応 訓練					11					8
社会貢献活動					12					7
地域・自治体の環境 活動					7					12
環境情報の公開						9				10
環境報告書の発行								7		12
事例発表の履歴	4									15

図1



(1) 原単位は、エネルギー使用量 (GJ) / 生産高 (百万円) を算出し、2000年を1.00とした時の指標値で表しています。
 (2) CO₂への換算は、化石燃料については、「エネルギー源別標準発熱量」(資源エネルギー庁)を、電気については(社)日本経済団体連合会の資料「電気の使用にともなう二酸化炭素排出原単位について」を基準に算出。

■廃棄物に関する調査結果

埋立／再資源化の推移を図2に示します。
 廃棄物の総排出量は前年と比べ778トン(14%)の減少となりました。

再資源化率は86.5%で前年比1.3%の改善と成りました。

生産拡大局面の中ですが廃棄物の総排出量はシッカリと統制されています。

埋立においても毎年確実に減少しており廃棄物の有価物化や再資源化が進んでいます。

図3は各会員の再資源化率のポジションを示しています。(横軸は総排出量)

再資源化率99%以上のゼロエミッション達成の会員が3社となっています。

徹底したゴミ分別や、砥石再資源化の取組等が継続的に行なわれています。

(2)「環境賞」の表彰について

第8回 環境大賞、栄誉賞、特別賞、並びに環境貢献賞を委員会で選考して理事会に推薦した結果、下記のとおり決定されました。

■環境大賞

- ・三菱マテリアル株式会社 明石製作所

■環境栄誉賞

- ・オーエスジー株式会社

■環境特別賞

<地球温暖化防止>

- ・株式会社 早坂精密工業

<廃棄物対策>

- ・レッキス工業 株式会社 トットリ工場

■環境貢献賞

<エコファクトリー部門>

- ・彌満和精機工業 株式会社 [クーラントポンプの電力削減]

<エコプロダクツ部門>

- ・三菱マテリアル株式会社 明石製作所 開発部 [ヘッド交換式エンドミルiMXシリーズの開発]
- ・オーエスジー株式会社 デザインセンター開発グループ [Phoenix P5D フェニックスインデキサブルドリル]
- ・株式会社 不二越 工具事業部 [Hyper DuAl SPホブ]

3. 今後の課題

第2次の「環境自主行動計画」の数値目標については政府目標の見直しを待っており作業が進んでいませんでしたが下記のとおり自主基準を設定し環境活動の向上に取組んで参ります。

(1) 地球温暖化対策

製造工程から排出される二酸化炭素は、2013年をBMとして第2次中期計画(3ヶ年)において、生産高原単位で毎年1%以上の削減を目指し、2016年までに2013年比3%削減の達成を目指す。

(2) 廃棄物対策

廃棄物の再資源化率は5つのグループに分け、2013年実績を踏まえグループ毎に目標設定して改善を促す。(表2 参照)

日本工具工業会全体としては2016年までに再資源化率90%以上の達成を目指す。

図2

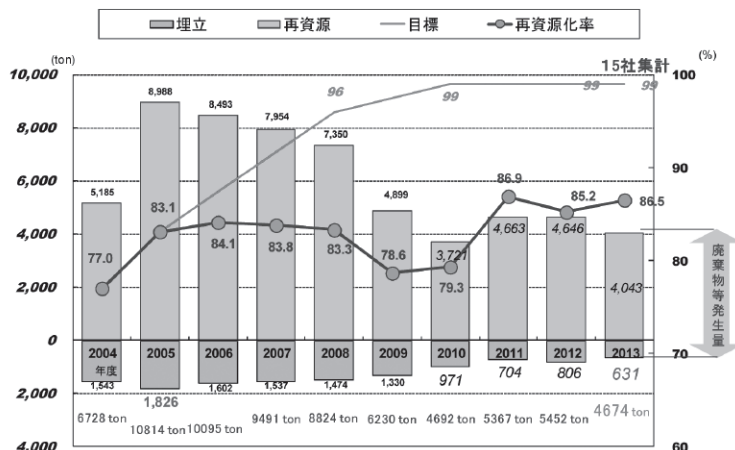


図3

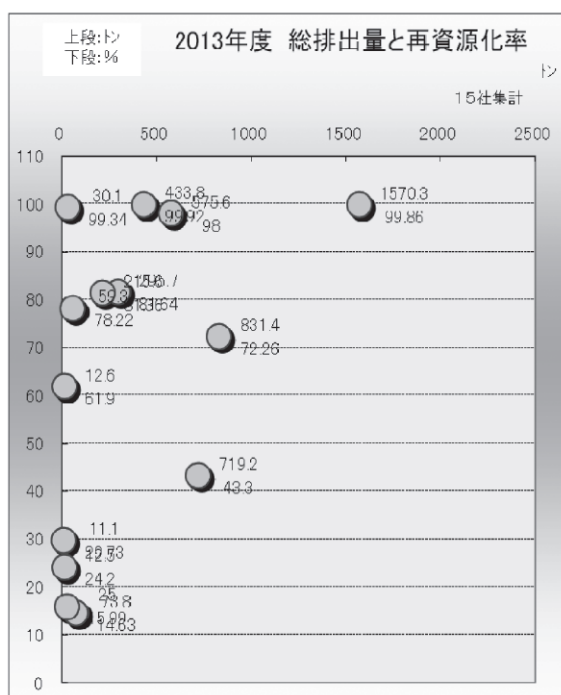


表2

グループ	2013年再資源化率	目標
1	99%以上	維持、継続
2	90%以上	99%超え
3	70%以上	90%超え
4	40%以上	70%超え
5	40%未満	40%超え

日本工具工業会 環境自主行動計画（第2次中期計画）

環境委員会 委員長 松岡 信一

1. 地球温暖化対策

製造工程から排出される二酸化炭素は、2013年をBMとして第2次中期計画（3ヶ年）において、生産高原単位で毎年1%以上の削減を目指し、2016年までに2013年比△3%達成を目指す。

[対策]

- ①省エネ設備への改善及び新規設備導入促進の支援
- ②付帯設備の省エネの取り組み、管理の徹底支援

[委員会の課題]

- ・省エネ事例の紹介（事例集の作成）、事例発表会の開催
- ・困りごと相談とQ&Aの公開

2. 廃棄物対策

1) 廃棄物の削減（ゼロエミッションの推進）

廃棄物リサイクル率は5つのグループに分け、2013年実績を踏まえグループ毎に目標設定して改善を促す。日本工具工業会全体としては2016年までにリサイクル率90%以上の達成を目指す。

（BM2013年：82%）

第1グループ：99%以上はゼロエミッションの永続的な維持、継続を目指す

第2グループ：90%以上は 目標：99%超え

第3グループ：70%以上90%未満は 目標：90%超え

第4グループ：40%以上70%未満は 目標：70%超え

第5グループ：40%未満は 目標：40%以上

[対策]

- ①ゼロエミッションのための分別支援（減容・リサイクル・有価物化・RPF化）
- ②重点廃棄物のリサイクル化支援
 - ・金属くず、紙、ダンボール
 - ・廃油、廃液
 - ・研削スラッジ（油泥、汚泥・珪藻土）、砥石

[委員会の課題]

- ・各社の廃棄物発生抑制事例の紹介
- ・研削スラッジリサイクルの実態調査、処理方法事例の提供
- ・少量廃棄物の回収とリサイクル化、有価物化対策

2) 化学物質管理の徹底

[対策]

- ①SDSの最新版化
- ②REACH・RoHS対応
- ③VOC対策

3) 流通、顧客の環境負荷低減

[対策]

- ①製品、梱包資材のムダの排除、リユース・リサイクル化の推進
- ②梱包資材の有害化学物質の排除
- ③使用済み工具リサイクル化の推進、資源循環への協力

[委員会の課題]

- ・実態調査と事例の紹介
- ・化学物質排除の事例紹介
- ・ユーザからの回収手段の検討

3. 環境教育、社会貢献活動の推進

1) 安全衛生・環境教育（法規制、管理）の啓蒙活動の推進

2) 社会貢献活動の推進

[対策]

- ①安全・環境課題に関する教育
- ②官公庁、NPOとの連携や広報活動
 - ・チャレンジ25の対応支援
 - ・生物多様性への対応支援
 - ・現行の公的公開活動の紹介やeラーニングなど資料の作成

[委員会の課題]

- ・環境課題に関する研修、教育の立案と実施
- ・環境啓蒙、教育パンフレットの作成と配布
- ・社会貢献活動の立案と支援
- ・環境報告書の発行

4. 環境賞授与

環境改善活動で優秀な活動を毎年表彰し、会員各社の活動レベルを向上させる。

[運用]

- 1) 適用範囲は、日本工具工業会に属する会社で生産活動が行われている事業所或いはその集合体を範囲とする。活動評価の年度は、当年4月1日から翌年3月31日までとする。
- 2) 環境調査、フォローアップは、毎年6月から8月に環境委員会が実施する。
- 3) 環境委員会は活動状況を精査し、環境各賞の推薦を理事会へ上程し承認を得る。
- 4) 年次合同部会時（秋季）に環境賞の表彰を行う。

以上

株式会社 アマダ 小野工場

〒675-1377 兵庫県小野市葉多町 56
TEL 0794-62-5931 FAX 0794-62-4351
URL <http://www.amada.co.jp/>

会社紹介と工場 PR

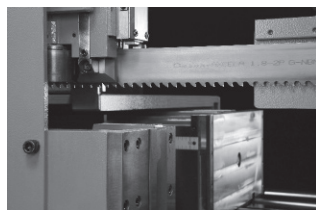
株式会社アマダは神奈川県に本社を置く金属加工機械の総合メーカーです。

小野工場はそろばんや金物で有名な兵庫県小野市にあり、その前身は昭和37年に発足した巧技術研究所というブレードメーカーでしたが、昭和39年に株式会社アマダに吸収合併され、今日まで約50年にわたってアマダのバンドソーマシン（金切帯鋸盤）の消耗品であるバンドソーブレード（帯鋸刃）の製造を行ってきました。

ブレード（鋸刃）は丸棒や形鋼、金型材など様々な材質や大きさの金属切断に使用されているので、被削材に合わせたブレードが必要です。そのため、アマダではあらゆる被削材に対応できるよう、バイメタルハイスブレード「SGLB」や超硬ブレード「AXCELA」など、切断する用途に応じた商品を取り揃えています。



小野工場



バンドソーブレード

小野工場で作られたブレードは国内だけでなく、東南・南アジア、南北アメリカなど海外にも広く出荷されています。

また、海外にはブレード製造拠点としてオーストリアにAMADA AUSTRIA GmbH、中国に天田連雲港機械有限公司を設立し、それぞれ欧州、中国国内へ供給を行っており、3工場生産されるブレードのシェアは、世界No.1となっています。また、小野工場ではブレードの製造のみならず、鋸刃の研究・開発も行っており、お客さまのニーズに応えるべく、日々研鑽し品質の向上、製品の改良、新商品開発などに取り組んでいます。

アマダはお客さま視点に基づいた新たな価値の創造とその提供が、双方発展の源泉になるという考えより、「お客さまとともに発展する」を企業理念としています。小野工場もこの企業理念に基づき、これからもモノづくりを通じてお客さまの更なる発展に貢献するため、日々精進しながら最高品質のブレードをお届けできるよう努力してまいります。

ご当地紹介

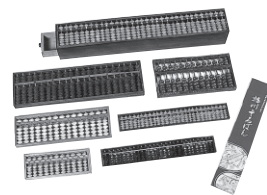
当工場のある小野市は、兵庫県東播磨地域のほぼ中央に位置し人口約5万人、毎年冬には数千羽の鴨が飛来することで有名な県立自然



鴨池

公園にも指定されている「鴨池」に代表される自然豊かな町です。市内を流れる一級河川の加古川の水運を生かして、古くから大都市圏との取り引きにより、そろばんや家庭用刃物といった地場産業が発達してきました。

豊臣秀吉の「三木城攻め」以降、秀吉の保護のもと大阪の堺からこの地にそろばんや金物の技術が導入され生産が始まりました。小野市で製造されたそろばんは「播州そろばん」として全国的に知られています。その生産量は全国一を占めており、国内だけでなく海外にも輸出されています。昭和51年には国の伝統工芸品に指定されました。また、播州そろばんの珠を使った「珠のれん」やその技術を使い、マガジンラックや籠、額縁などの木工工芸品の製造が盛んになりました。家庭用刃物としては、鋏や鎌が良く知られています。鋏は、ラシャ切鋏、池坊剪定鋏、刈込鋏、理髪用鋏などさまざまなものがつくられています。また、旧小野藩一柳家の刀鍛冶であった藤原伊助が剃刀の技術を応用して作った「播州鎌」はその鋭い切れ味から「カミソリ鎌」の異名を持ち、ラシャ切鋏とともに全国シェアの80%以上を占めています。



播州そろばん



鋏・鎌

文化財・歴史資産としては、市内には鎌倉時代の重源上人が建立したと伝えられる播磨屈指の名刹「浄土寺」があります。浄土寺の浄土堂は東大寺南大門とともに全国で唯一の大仏（天竺）様という技法を伝えるお堂で、阿弥陀如来像や両脇侍立像とともに国宝に指定されています。



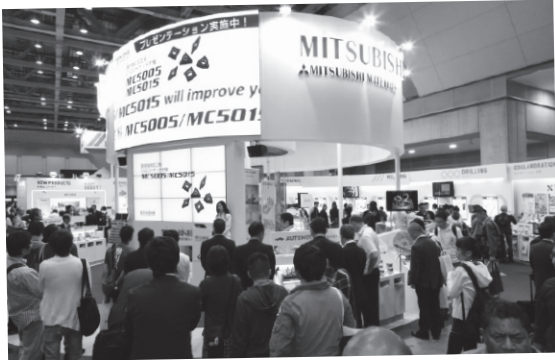
浄土寺



阿弥陀三尊

JIMTOF2014

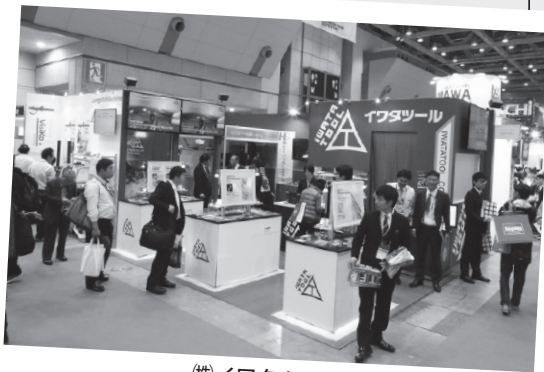
会員各社のブース



三菱マテリアル(株)



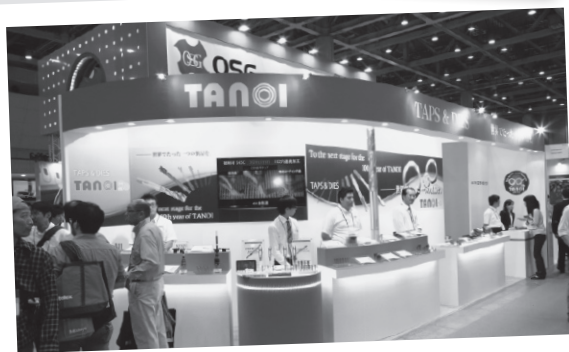
(株)小笠原プレジジョンラボラトリー



(株)イワタツール



(株)不二越



(株)田野井製作所



オーエスジー(株)



(株)栄工舎



(株)彌満和製作所



岡崎精工(株)



大津ツール(株)



日本エリコンバルザース(株)



(株)宇都宮製作所



(株)東鋼



(株)三和製作所



グリーンツール(株)



三立機器(株)



(株)松岡カッター製作所



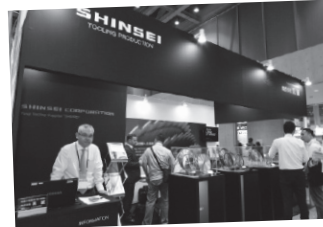
エムゲ・フランケン(株)



本多プラス(株)



ニューウェル・ラバーメイド・ジャパン(株)



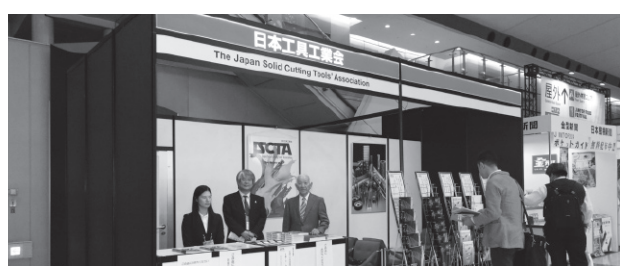
(株)真誠



マンヨーツール(株)



ノガ・ジャパン(株)



日本工具工業会

超硬工具協会との統合検討経過(その2)

日本工具工業会事務局

Myツールの前号(No.115)に引き続き、超硬工具協会との統合検討の経過報告をさせていただきます。前以てお断りしますが、当記事の決定案等につきましては、統合が実施された場合の案が記載されています。統合の賛否につきましては、来年4月開催の通常総会で決議する予定です。状況を十分にご理解頂いた上で、ご覧頂きたいと思っております。

12月中旬までに5回の統合推進委員会、3回の正副理事長会議、2回のワーキンググループ(統合推進正副委員長、事務局等で構成)で打合せを実施して来ました。Myツール前号との間にJIMTOF2014が開催されたため、委員の方には忙しい中、時間を割いて議論頂きました。現時点でお知らせできる案を下記に記載いたしましたのでご確認ください。

○統合が可決された場合の新団体案

- ①団体名：日本機械工具工業会
- ②英文名称：Japan Cutting & Wear Resistant Tool Association
- ③略称：JTA(3文字の方が使い易いため)
- ④ロゴ・カラー：
 - ・現在デザイナーに依頼中
 - ・数案作成して貰い、その中から決定する
- ⑤定款：事務局でたたき台を作成中
(平成27年3月中旬までに作成し、支部総会で提示)
- ⑥統合時期：
 - ・平成27年6月3日を目標とする
 - ・統合が理事会、総会で可決されれば下記の行事を開催する。
日時：平成27年6月3日(水)
行事：理事会、解散総会、設立総会、理事長選出の理事会、披露パーティ
場所：TKPガーデンシティ品川
- ⑦統合可否の決議：下記の行事で決議する予定
日時：平成27年4月23日(水)
行事：平成27年度通常総会
場所：銀行倶楽部(仮)
- ⑧コンプライアンスの検証：
 - ・両団体ともに弁護士に検証して貰う。
 - ・議事録、公表資料、配布資料を精査(2月に実施)
- ⑨事業：当面は両団体の事業を並行して実施
- ⑩組織：
 - ・原則として両団体の従来の機能を有する組織は残す
 - ・工具工業会の支部は、地区会員懇談会に統合。
(委員会名は、統合を機に新しい名前にもすることも考慮する)
 - ・機能が重なる委員会の統合を検討し、体系立った組織とする。
 - ・技術委員会・環境委員会は同じ名前でもあり、委員長同士が統合に向けて話し合いを実施する。
- ⑪理事会：
 - ・統合当初は現状の両団体の人数を合わせたものとして理事会を立ち上げる(23名)
 - ・来年は両団体とも役員改選期であり、統合時のメンバーをどうするか検討

- ⑫広報：
 - ・機関紙編集委員会(名前は未定)を残す。
 - ・機関紙は統合し、名前を検討する。HPの運営も担当する。
- ⑬人事：
 - ・統合時の新理事長(新会長)は、工具側から出す。
(現理事長会社の(株)不二越の代表取締役が候補)
 - ・役員、部会長、委員長の各人選は、通常総会までに決定
- ⑭事務所統合：
 - ・統合の是非に拘わらず、まずは事務所を共同で運営する
 - ・平成27年2月中に下記に移転する
住所：東京都千代田区神田須田町2-25
建物：GYB秋葉原(新築12階31坪)
アクセス：秋葉原駅各線より3~5分程度
(JR、メトロ日比谷線、TX)
- ⑮会費：
 - ・平成27年度は両団体で4月からの執行予算を作成し、従来ベースの会費を徴収
 - ・平成28年度から同一徴収基準で会費を徴収
 - ・同一徴収基準となることを前提に徴収基準を見直す
- ⑯会員資格：
 - ・統合を機に見直す
 - ・正会員、準会員・賛助会員制度は残す
 - ・賛助会員のJIMTOF出展会員の資格・会費を見直す
- ⑰表彰制度：
 - ・現状の制度は当面継続
 - ・両団体の会員が対象となるよう制度は見直す
 - ・見直し・整理は必要
- ⑱平成27年新年賀詞交歓会の共同開催：
 - ・丸の内銀行倶楽部で、250名を想定して共同で開催
(平成27年1月8日)
 - ・両理事長の挨拶、乾杯は工具、中締めは超硬
 - ・お互いの団体を知るイベントを検討する
- ⑲会計の統合：
 - ・平成28年度を目途に統合を目指す
 - ・同一の会費徴収基準決定、繰越金の基準の決定、引当金の統合、リース契約の解消、特別会計の解消には時間が必要

○統合に向けての今後のスケジュール

- 12月25日(木) 第4回両団体正副理事長会議
 - 1月 8日(木) 新年賀詞交歓会合同開催
 - 1月26日(月) 第6回統合推進委員会
 - 2月25日(水) 総務企画委員会
 - 3月24日(火) 東京支部総会
 - 3月26日(木) 中部支部総会
 - 3月27日(金) 大阪支部総会
 - 4月23日(木) 平成27年度通常総会(統合の是非の決定)
- 上記以外の項目にも、まだまだ決めなければならない項目が多数あります。また、実務面でも賀詞交歓会の共同開催の準備、事務所移転の準備等で会員の皆様方には、ご迷惑をおかけすることが多くなると思っておりますが、何卒ご理解ご協力の程、宜しく申し上げます。



「わが故郷 三重県四日市」 ～概要とグルメ（四日市・桑名）編～

バイト部会長 植山 浩

「出身はどちらですか？」と聞かれると「三重県四日市です」と控えめに答えます。出生地ではないのですが高校卒業までの14年間を過ごしました。三重県はあまり知名度が高くなく、2013年魅力度ランキング31位(47都道府県)と下位グループに甘んじています。そこで、今回リレー随想に寄稿のチャンスを頂きましたので少し三重県の事を知って頂ければと思います。

三重県の最近のイメージは「神宮式年遷宮」のあった「伊勢神宮」や松阪・鳥羽などの伊勢志摩地域が有名で、「美し国(うましくに)三重」として海や山の自然に恵まれ、心が満たされる地域として取り組んでいます。一方四日市は北勢地域にあり中京工業地帯の一角です。古くは伊勢神宮への分岐点の宿場町として栄え、江戸時代には天領があり伊勢の国北勢地域の行政の中心でした。昭和初期になると、横浜に続き第二海軍燃料廠が建設されました。この施設は戦争に備えて原油の製油、ロケット燃料の貯蔵などが目的の施設であった為に、終戦時には徹底した空爆を受けました。近代では高度経済成長時の「コンビナート」や「四日市公害」が有名です。現在では人口306万人を擁する三重県最大の工業都市です。近年は名古屋のベッドタウンとなっていて以前のような環境問題はありません。

北勢地域には意外においしい食べ物も沢山あります。今回はおすすめ情報を幾つかご紹介させていただきたいと思います。

①「B-1グルメ」の四日市代表である「四日市とんてき」は、分厚いグローブ状の豚肉をにんにくと一緒に濃い目のたれでソテーし、たっぷりのキャベツの千切りをそえた料理です。にんにくが程よく入っており、ソース味のたれとよくあってごはんの進

むガッツリ系の料理です。各地で開催される「B-1グランプリ」に出ているので是非ご試食下さい。(四日市とんてき来々憲)

- ②三重県は「松阪牛、伊賀牛」などブランド牛が有名ですが、ブランド牛ではない比較的安い牛肉でも絶品です。以前JR四日市駅の2階に「こだま」というレストランがありました。特別な時に「ステーキやハンバーグ」を食べた記憶を思い出します。現在は閉店してしまいましたが、駅の近くにある洋食レストラン「グリルニューコトブキ」のハンバーグはなかなかの肉質でジューシー、デミグラスソースも秀逸です。
- ③蛤料理が有名です。「その手は桑名の焼き蛤」などのことわざもあり、江戸時代から有名でした。桑名には、美味しんぼ第576話「恵みの貝 後編」に地蛤のはまぐり鍋で掲載された有名な割烹料理店があります。料理は蛤懐石で、どれも「ぷっくりとした大きな蛤」で絶品の味です。もちろん「大和蛤」です。(割烹 日の出)
- ④「時雨(しぐれ)煮」が有名です。しぐれ煮とは生姜を入れた佃煮の一種で、たまり醤油で煮込みます。「あさり」などのむき身をたまり醤油に入れて煮ます。短時間で仕上げる調理法が、降ってすぐ止む時雨に似ているからとも言われています。しぐれ煮は甘さが控えめなのでおにぎりの具やお茶漬けに最高です。(村上時雨店)

いずれの料理も過去から現在に続く地元の味です。機会があれば是非ともご賞味いただければ幸いです。故郷を出てからすでに34年が過ぎました。今後は「出身地は三重県四日市です」と胸を張りたいと思います。



グリルニューコトブキ



割烹 日の出



村上時雨店

(高周波精密(株)取締役営業部長)

海外よもやま話

大橋 誠司

インドネシアに赴任して3年半が経過した。大雑把にインドネシアを紹介すると2億4千万の人口、平均年齢27歳の若さ、800万台のオートバイの生産、100万台を超えた自動車生産でどちらも日系メーカのシェアが90%以上となっており、市場の大きさ、成長の期待から注目の国である。当社も昨年、再研磨工場を設立して、インドネシアの市場を開拓しているところである。

ご存知の通りインドネシアは、世界最多のイスラム教徒を抱え、日本の文化と大きく異なる。人口の90%以上がイスラム教徒で、その他にいくつかの宗教がある。住民票には、各自の宗教が記載されているほど宗教を大事にしている。

イスラムの世界では、2つの大きなお祭りがあり、一つは有名なラマダン（断食月）、もう一つは犠牲祭と呼ばれるものである。それぞれには、大切な意味があるが詳しい説明は省略させていただく。

ラマダンは、断食を行う期間のことで、実際の断食はプアサと呼ぶ。大相撲の大砂嵐がプアサをしながら相撲をとっているのは有名な話だが、プアサは、地域によって時間は異なるがおおよそ一ヶ月間、朝の4時半頃から夕方6時頃まで、一切のものを口にしないことである。飲み食いはもちろん、唾も飲み込んではいけない時間帯である。今年、初めて工場でラマダンを迎え、空調も無い暑い工場の中で水も飲まないとなると、倒れる人が出るかもしれないと心配したが、従業員は慣れたものでその

ような人は現れなかった。そんな荒行なので、ラマダン期間中は、夕方6時になると一斉に家族や仲間と食事をして、一日のプアサが終了したことを祝う。残業どころではない。会社でも食事会を開き私も参加させてもらった。現地の食堂に集ま



ナシゴレン

り、インドネシア料理を堪能した。サテアヤム（焼き鳥）、ルンダン（牛肉の煮込み）、チャプチャイ（野菜炒め）など辛さを気にしながらビール（会社外の人も含め200人以上いる食堂内で不届き者の私だけ）などを飲み歓談する。締めにはナシゴレン（炒飯）やミーゴレン（焼きそば）をいただく。毎晩がお祭りではあるが、ラマダンが終了する日には、家族が揃い花火が打ち上げられラッパを鳴らしてお祝いし、断食明け大祭のレバランで大型連休となる。

もう一つは、犠牲祭。生贄を神に捧げる記念日で、イスラム教徒は正装してモスクを訪れる。インドネシアでは、生贄として山羊や牛を捧げるために公衆の面前で屠殺し、肉を1人1kgほど振る舞う。学校や広場の至る所で行わ



生贄になった山羊

れているが、私は怖くて見るができない。街中が血生臭くなり、私は耐えられない。当社も昨年は、仕事をさせてもらっている地域に感謝する意味から山羊を贈呈したが、今年は、次の日に食べられることを考えたらかわいそうになってしまいできなかった。

インドネシアでは驚きの連続であるが、自分は、ゴルフ焼けと習慣に馴染んだ生活でインドネシア人と区別がつかなくなっているようである。日本人がインドネシア語で話しかけてくる時に強く感じる。

会員企業様におかれましても、インドネシアを訪問される機会も多いと思います。お立ち寄りの際は、是非とも声をかけてください。

(PT.OSG INDONESIA Director)



ゴルフ焼け



日本工具工業会稗史（第五回）

【輸出振興と品種別生産高】

大和田理事長は国内では“協調と競争”というスローガンを掲げると同時に輸出の拡大を機会あるごとに強調していました。特にドリル戦争後は輸出拡大が至上命題となり対米輸出ではGSA（米国調達局）のドリル国際入札に成功し輸出に弾みがつきました。輸出が増えるにつれて価格で無用なトラブルを避けるため部会毎に貿易委員会が設置されましたが、特に輸出の多いねじ切り工具部会が頻度多く開催されました。又東南アジア地域向けは国内のJIS規格品が通用したので、国内の競争がそのまま同地域にも持ち込まれ、特に駆引きの上手な現地代理店は、それぞれ相手陣営の情報を針小棒大に流して日本メーカーを焚きつけたのでお互いに疑心暗鬼に陥り調整に苦労しました。

品種別生産高では長い間、ドリルがトップの座を維持し、次いでタップ・ダイス、三番手がミーリングカッター（エンドミル）という順位が定着していましたが、昭和56年（1992）頃から自動車のモデルチェンジの活発化により金型需要が増大したため、ミーリングカッター（エンドミル）が急増して第1位となり、タップ・ダイスが2位、ドリルが3位という展開になりました。その後平成4年（1992）頃からタップ・ダイスが輸出の増大により第1位を占めるようになりました。ちなみに平成25年度のタップ・ダイスの年間輸出金額は153億円で切削工具輸出高全体の55%を占めるに至りました。

【労使懇談会】

会員会社の労働組合も穏健な企業内組合から会員会社の社内組合で横断的に組織した“工具労協”など色々ありました。その一方で昭和30年代後半から40年代にかけては全国金属労働組合（通称全金）が猛威を振るって一世を風靡していました。彼らは表面上労働者の味方のふりをして労働者の地位向上、待遇改善を掲げるものの、実態は会社を潰すことが目的で、それが成功すると資本主義の砦を一つ破壊したとして組織内での地位が上がるという仕組みになっていました。そのため全金に狙われた企業は労使とも散々な目に遭いました。会員会社の中にも団交の席上、社長が手にタバコの火を押し付けられたという今では考えられない不法行為もあったようです。

こうした事態を憂慮した理事長は会員会社の経営者側と組合代表を招いて毎年二回、工具工業会主催の労使懇談会を開き、労働者側に会社の業績の推移や業界の現況について説明し、組合側は従業員の要望を伝えたりして風通しを図っていました。またこの当時は昇給や賞与は個々の企業の業績というより世間相場、つまり横並び方式が重視される時代でしたので労務社長会を開いて労務問題の情報交換をしていました。また事務局は時期になると会員会社に依頼して情報の報告を受け、それを集計して賃上げ情報、ボーナス状況を各社に配布して参考に供していました。

【総会と合同部会】

工業会の重要行事である5月の総会と11月の合同部会には通産省から産業機械課長等を来賓として招くのが通例で、平成10年頃までは東京・中部・大阪の各支部が輪番制で会場の設営準備に当たっていました。大阪支部担当の時は京都を中心にして開催されることが多く、芸妓連中はY工具のS社長の肝煎りで先斗町の上田梅（お茶屋）から呼ぶのが決まりになっていました。中部支部は近くの伊勢志摩・長島温泉などの観光名所で開催したり、時には北陸の温泉地まで足を伸ばしたこともありましたが、東京支部の担当の時は交通の便からみて湯河原・熱海・伊東あたりが精々だったので当番幹事はいつも会場設営に頭を痛めていました。

総会の重要議題の一つに二年に一度の理事長改選があり、大和田理事長時代も総会を一時中断し、別室で理事会を開き新理事長の選出をするのが通例でしたが、実際は総会会場外の廊下に理事が集まり、臨時議長から理事長再任を提案し満場一致で一分足らずの立ち話で大和田理事長の再任が決まりました。かくして27年間（昭和41年<1966>～平成5年<1993>）に亘り理事長交代はありませんでした。

総会後の懇親会では日頃角を突き合わせている会員同士も和やかな時間を過ごしました。会員の中には芸達者が多く、芸妓連中の踊りの後は、手品、詩吟、踊り、寸劇等々玄人はだしの芸が次々と披露されました。中でも恒例となっていた日立金属の土器屋常務の“ドジョウ掬い”は絶品でした。翌日は観光組とゴルフ組に分れて総会後の一日を楽しみました。

（Myツール編集委員・細島圭三）

特殊鋼工具 平成24～26年度上期生産額実績及び26年度下期見通し

(単位：百万円、%)

品 目	平成24年度 実績	平成25年度実績				平成26年度実績・見通し					
		上期実績	下期実績	年度合計	前年度比	上期実績	前年同期比	下期見通し	前年同期比	年度見通し	前年度比
ドリル	15,920	8,683	8,988	17,671	111.0	9,174	105.7	9,187	102.2	18,361	103.9
ミーリングカッタ	9,163	4,250	4,677	8,927	97.4	4,976	117.1	4,720	100.9	9,696	108.6
ギヤーカッタ	10,083	4,714	4,788	9,502	94.2	5,043	107.0	5,010	104.6	10,053	105.8
ブローチ	12,467	6,667	6,858	13,525	108.5	6,558	98.4	6,857	100.0	13,415	99.2
タップ・ダイス	30,556	13,527	13,989	27,516	90.1	15,409	113.9	15,552	111.2	30,961	112.5
バイト	1,923	902	962	1,864	96.9	977	108.3	988	102.7	1,965	105.4
リーマ	1,705	800	853	1,653	97.0	867	108.4	902	105.8	1,769	107.0
合 計	81,817	39,543	41,115	80,658	98.6	43,004	108.8	43,216	105.1	86,220	106.9

(出典：経済産業省 機械統計)

ソリッド切削工具（ハイス+超硬） 平成24～26年度上期生産額実績及び26年度下期見通し

(単位：百万円、%)

品 目	平成24年度 実績	平成25年度実績				平成26年度実績・見通し					
		上期実績	下期実績	年度合計	前年度比	上期実績	前年同期比	下期見通し	前年同期比	年度見通し	前年度比
ドリル	22,252	11,619	12,568	24,187	108.7	13,212	113.7	13,300	105.8	26,512	109.6
ミーリングカッタ	21,356	10,952	11,373	22,325	104.5	11,769	107.5	11,730	103.1	23,499	105.3
ギヤーカッタ	9,588	4,442	4,587	9,029	94.2	4,842	109.0	4,800	104.6	9,642	106.8
ブローチ	11,158	5,983	6,101	12,084	108.3	5,811	97.1	6,100	100.0	11,911	98.6
タップ・ダイス	33,386	14,784	15,181	29,965	89.8	16,576	112.1	16,860	111.1	33,436	111.6
バイト	2,344	1,151	1,266	2,417	103.1	1,286	111.7	1,300	102.7	2,586	107.0
リーマ	243	368	364	732	301.2	365	99.2	385	105.8	750	102.5
その他工具	337	171	173	344	102.1	186	108.8	180	104.0	366	106.4
合 計	100,664	49,470	51,613	101,083	100.4	54,047	109.3	54,655	105.9	108,702	107.5

(出典：日本工具工業会 会員統計)

新賛助会員紹介

○本年1月より 下記会社が新賛助会員として入会されましたので紹介致します。

会 員 名：(株)オンワード技研

設 立：1986年4月

会員代表者：代表取締役 川島 丈志

事業内容：①PVDコーティング受託加工

会員住所：〒929-0111

②コーティング装置販売

石川県能美市吉原町ワ13番地

③表面処理サービス(CVD・プラズマ溶射・特殊メッキ・テフロン)

電話番号：TEL：0761-55-0466 FAX：0761-55-4405

工具研削サービス

計 報

松本 政 一 様

(株)日研工作所 代表取締役社長、日本工具工業会大阪支部正会員 会員代表者)

平成26年11月26日ご逝去、享年89歳。



葬儀は、平成26年11月29日、近親者様のみでの密葬にて執り行われました。
また、12月24日にシェラトン都ホテル大阪にて「お別れの会」が催されました。

謹んでお悔やみ申し上げます、ご冥福をお祈りいたします。

なお、松本社長ご逝去に伴い、長濱明治様が社長に就任されました。

編 集 後 記

新しい年2015年は、当工業会にとって重要な年になりそうです。統合の可否はまだ決まっていますが、統合になった場合でも各会員様にとって出来るだけ満足いただけるよう、諸事項を検討していきます。是非、ご意見を頂ければと思います。それに伴って、Myツールも次号で最終号になるかもしれません。新しい機関紙をどのよう

なコンセプトで作るのか、編集委員で議論していくつもりです。

2015年が会員の皆様にとっても、工業会にとっても良い年となりますようご祈念申し上げます。今年もどうか宜しくお願ひ申し上げます。